

災害に備える

首都圏における直下型地震の起きる確率

30年以内に70%とは？



発災直後

ステージ1：揺れた瞬間を生き残る自助

発災3日以内

ステージ2：発生した被害を乗り越える共助

発災4日以降

ステージ3：被災生活を行き永らえる

ステージ1：揺れた瞬間を生き残る自助



耐震化

家具転倒防止

身を伏せる

ステージ2：発生した被害を乗り越える共助



周囲の確認

救助救命活動

消火活動

避難活動

ステージ3：被災生活を行き永らえる



安否確認

帰宅困難者対応

備蓄品の活用

健康衛生維持

ライフラインが90%復旧する日数

	東日本大震災 (2011/3/11)	阪神淡路大震災 (1995/1/17)
電 気	6 日	2 日
水 道	2 4 日	3 7 日
ガ ス	3 4 日	6 1 日

(出典：tenki.jp 知る防災/日本気象協会)

停電時

主な共用設備と震災時の影響を把握する

設備名称	震災時の影響	特記事項
エレベーター	・震度3程度 最寄階停止後に開放⇒その後自動復旧 ・震度4程度以上 最寄階停止後に開放⇒閉鎖後運転休止	・災害時は使用しない ・非常用キャビネットを利用する
オートドア（ロック）	停電の場合、使用不可	手動で開放状態にする
駐車場	停電の場合、下記装置が使用不可 ・入口ゲート（チェーン） ・機械式昇降装置	入口ゲート（チェーン）は手動で開放状態にする

止水対策事例

